





宇宙の一角に生きていながら、未知の存在である宇宙。しかし、観測技術が進み一昔前には考えられないほど宇宙の理解が進んでいます。宇宙は「無」から誕生したと考えられています。「無」には、何も存在しないのではなく、巨大なエネルギーがまつているそうです。約138億年の歳月を重ねて宇宙ができ、太陽ができ、約46億年前、地球ができ、その後、海が出来、生命が誕生し、今私たちが地球上で生きています。太陽の寿命は100億年。25億年後には、地球は太陽の影響をうけて温度が100度以上に達して地球上のすべての生物が絶滅します。そして、地球は太陽に飲み込まれてしまうそうです

(図解 宇宙の話より)

さて、仏教では世界の生成と消滅を四つの時期に区分した「四劫」という思想があります。四劫とは、山河・大地・草木・生命など天地万物が形を成す成劫(じようこう)の時期、出来上がった世界が継続する住劫(じゅうこう)の時期、それらが破壊していく壊劫(えこう)の時期、すべてが破壊され無一物である空劫(くうこう)の時期、のことをさします。「空」とは単なる「無」ではなく、「固有の実体がない」という意味で、つまり「どんな物質も独立した実体ではなく、さまざまな要素の集まりに過ぎない」ということをいいます。空劫が過ぎて、再び成劫となり、無限に四劫が繰り返されます。私たちが生きているのは住劫の時期です。別の語で賢劫(げんこう)ともいいます。お釈迦様の生きておられた紀元前500〜600年に存在した四劫思想が、現在の科学で解明されてきた宇宙について重なる点があることに驚くばかりです。

★妙法蓮華経 五百弟子受記品第八

おげんごうちゅう どうらいしよぶつ せつげうにんちゅう せつげうにんちゅう せつげうにんちゅう  
 「於賢劫中 当来諸仏 説法人中 亦復第一 而皆護持助宣仏法」  
 にかいごじしよせんぶつげう また

賢劫の中、当来の諸仏の説法人の中において、亦また第一にして、みな仏法を護持し助宣せん。